

安全安心地域共創リサーチセンター主催 シンポジウム
「防災・減災のための備えと行動 ～今、何ができるか～」

日時:2014 年 12 月 9 日(火)13:00～17:00

会場:豊橋商工会議所9F 大ホール(豊橋市花田町石塚 42-1)

【趣旨】

愛知県豊橋市を含む東三河地域は、南海トラフ巨大地震や巨大台風による高潮など、自然災害の脅威にさらされています。こうした中、豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター(CARM)では、学内の総力を結集し、地域社会の災害への予防力・防御力を向上させるための取り組みを行っているところです。

本シンポジウムでは、センターのこれまでの取り組みを再整理し、防災・減災分野における大学と地域の連携の在り方、防災人材の育成方法、センターの先進的な災害対策技術の地域への実装・展開方法などを取り上げ、いつ起きるか分からない巨大地震に対して、今、何ができるかを議論しました。

【報告】

シンポジウムには、地元東三河地域からの申込者を中心として募集定員に近い約140名の参加者が、会場となった豊橋商工会議所(9F大ホール)にご来場下さいました。



冒頭で、当センターが中心となって昨年度から三河港湾の企業・自治体の防災担当者等に対して実施している「地域地震 防災コース」の取り組み状況の報告と地域防災力を高めていく上での方向性を示したのち、地震防災の専門家として最前線で東日本大震災後の地域復興に従事された源栄正人教授（東北大学災害科学国際研究所）、地域行政として災害時の危機管理を担う鷺坂浩孝氏（豊橋市危機管理監）、三河港湾に立地する田原臨海企業を代表して渡辺悦男氏（田原臨海企業懇話会／愛知海運産業（株））、地域の防災対応力を高める装置としてのBCPのあり方を提示する天野明夫氏（大成建設（株）ライフサイクルケア推進部）が議論に加わり、会場の参加者からの意見を交えながら、東三河地域の防災・減災のために、今からすべきことの方角性について活発な意見交換を行いました。



地震防災の専門家、東三河港湾企業の代表者、危機管理に関わる行政担当者を交え、巨大地震に対して「今、何をすべきか」をテーマに議論を行った